

子どもの学びを支える「チーム読書」の取組
 ～「想像力」「語彙力」「読解力」を高める読書活動の推進～
 湧別町立湧別小学校 学習部・研修部

1 学校図書館の目的と3つの機能

- ・目的 学校の教育課程の展開に寄与し、児童の健全な教養を育成する施設
- ・機能 「読書センター」…児童の読書活動や読書指導の場
 「学習センター」…学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにして理解を深めたりする
 「情報センター」…児童の情報の収集・選択・活用能力を育成する



2 本校のよさと課題

- 学習に取り組む姿勢がよくなってきている。
 - 授業改善が進み、学力も向上しつつある。
 - 「ことばの力」が足りない。読書経験も少ない。
 - 学校図書館の利用があまりされていない。 (※昨年度2月の校内ワークショップより)
- 新学習指導要領の全面実施により、教育課程の中で一層効果的に図書を活用していく必要がある。

◎これからの学校図書館は、読書活動の推進のために利活用されることに加え、調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の様々な授業で活用されることにより、言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されている。

3 今年度の取組

何のために (目的)	何を (具体方策)	どのように (方法)
読書環境の整備 ★場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・利活用しやすい図書室 ・図書室の増設 (高学年用) と本の更新 ・学級図書コーナーの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・町立図書館との連携 ・巡回図書の活用 ・係活動との連動
読書活動の充実 ★量を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習での「朝読」 (新設) (月・火・水) ・読み聞かせ支援 (ボランティア) (1～3年、毎週水曜日) ・町立図書館「読書通帳」の活用 (1～2年は「どくしょカード」) ・家庭学習の手引き「家読」のすすめ ・移動図書館「わくわく号」の活用 (月2回、木曜日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域が連携を図った指導体制づくり ・読書活動の活性化
読書指導の充実 ★質を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の授業との関連 (校内研修) 授業づくりの工夫 (「～たい」を生み出す) 例「『読書通帳』をレベルアップしよう」 例「おすすめの本を紹介しよう」 例「〇〇シリーズを読んでみよう」 ◎子どもに「言葉の力」を実感させる ◎「ことばのお宝帳」の実践 ◎学力の保持、繰り返し学習 ◎学びをつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図のある学習活動 (読書) で本を読む必要感や学びの自覚を高める場面の設定 「読みたい」「力が付いた」 ・物語や説明文の学び方を身に付けさせる ・実生活とつながる学習のゴールを設定



資料

湧別町立湧別小学校

○学力向上につなげる読書活動の推進 ～「読む・書く」体力を育てる～

目的・言語活動や探究活動を豊かにすること
・「資質・能力の育成」につなげること

1 読書環境の整備



全校で
読書時間を確保



図書コーナー
を新設



目的や実態に応じた選書
(司書と連携)

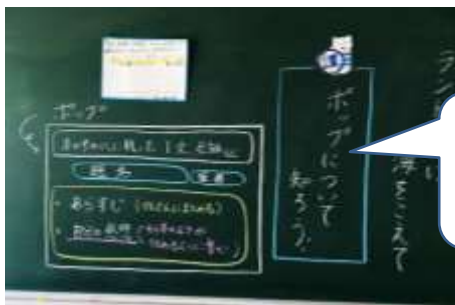


単元と関連した
並行読書
(巡回図書を活用)



意欲を高める
読み聞かせ

2 「言葉の力」を育てる「読むこと」授業の充実



目的・意図があり、
必要感を生む
単元づくり



考えをまとめ、
書き切る力の
育成

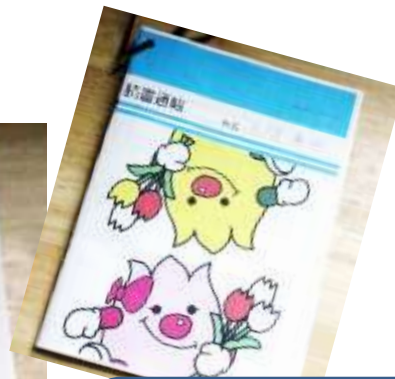
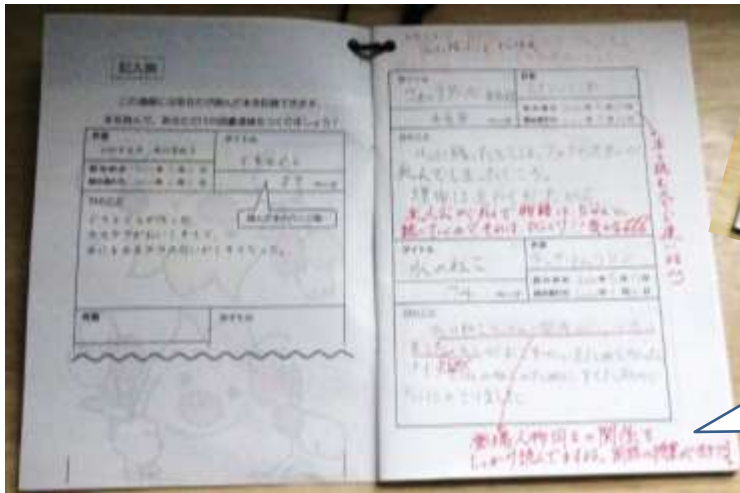


叙述から、新たな見方(自分の考え)や考え方(理由や根拠)を確かにもつことの重視



複数のテキストから引用し、考えをまとめて書く活動の重視

3 学びを生かす場の設定



「登場人物同士の関係」
を視点として本を読み、
朝読書の感想が書かれた
「読書通帳」

「簡単なあらすじにまとめる」
「本のよさを感想としてまとめる」と
いう「言葉の力」を使って書いたポスター



4 読書活動の推進計画（学習部と研修部が連携）

何のために（目的）	何を（具体方策）	どのように（方法）
読書環境の整備 ★場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・利活用しやすい図書室 ・図書室の増設（高学年用）と本の更新 ・学級図書コーナーの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・町立図書館との連携 ・巡回図書を活用 ・係活動との連動
読書活動の充実 ★量を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習での「朝読」（新設）（月・火・水） ・<u>読み聞かせ支援（ボランティア）</u> <u>（1～3年、毎週水曜日）</u> ・町立図書館「読書通帳」の活用（1～2年は「どくしょカード」） ・家庭学習の手引き「家読」のすすめ ・移動図書館「わくわく号」の活用（月2回、木曜日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域が連携を図った指導体制づくり ・読書活動の活性化
読書指導の充実 ★質を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の授業との関連（校内研修） ・授業づくりの工夫（「～たい」を生み出す） 例「『読書通帳』をレベルアップしよう」 例「おすすめの本を紹介しよう」 例「〇〇シリーズを読んでみよう」 ◎子どもに「言葉の力」を実感させる ◎「ことばのお宝帳」の実践 ◎学力の保持、繰り返し学習 ◎学びをつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図のある学習活動（読書）で本を読む必要感や学びの自覚を高める場面の設定 「読みたい」「力が付いた」 ・物語や説明文の学び方を身に付けさせる ・実生活とつながる学習のゴールを設定

